



## 弁護士 若松 敏幸

山口県出身。「神奈川大学」卒業後、1981年に弁護士登録。1983年に「若松敏幸法律事務所」を開業し、2008年には法人改組して「弁護士法人 ラグーン」を設立する。同事務所所長の他、「山口県弁護士会」会長、「下関市公平委員会」委員長などを歴任。

### 相談者のニーズに応えられる 優秀かつ多様な人材の確保が大切

——「ラグーン」さんは、若松弁護士が立ち上げられたそうですね。まずは、弁護士を志されたきっかけから伺います。

山口県美祿市にある山間部の小さな町の生まれで、元々は理系の学生でした。数学者を目指していたのですが、その道は挫折。それなら数学と関係がない分野へと、高校3年生のころから法学を学び始めました。また、当時観ていたアメリカのテレビドラマ「弁護士ジャッド」に憧れたのも、弁護士を志すきっかけだったのですよ。

——弁護士も難しい道と思いますが、司法試験にはいつごろ合格されましたか。

18歳で志を立ててから10年掛かりましたので、28歳の時でした。それから2年間、埼玉の法律事務所働いた後、故郷の山口に帰り、1983年、一人で事務所を立ち上げたのです。

——今は大所帯の事務所も多いですが、昔は一人事務所が当たり前でしたね。

ええ。今でも全国3万6千の弁護士の

# 専門チームで 地域密着の弁

## COMPANY PROFILE



## 弁護士法人 ラグーン

山口県下関市南部町2番7号  
URL: <http://www.wakamatsu-law.com>

うち、弁護士一人の事務所が約25%、2人の事務所が15%、5人以下の事務所ではトータル65%になります。そのように少人数の事務所が圧倒的に多いのですよ。そんな中において、当事務所はお陰様で7名の弁護士を揃えられています。

——それは素晴らしい。人数が増えれば、対応できる分野も広がるでしょう。

おっしゃる通りです。始めた当初は、世に言うサラ金問題が隆盛の時代で、借金をして破産する、追い立てられて自殺するといった人も、少なくありませんでした。当事務所でもそうした案件をメインに扱い、毎日がひどい高利のサラ金との戦いでしたが、相談者様を救済できればと力を注いできたのです。しかし弁護士が増えるにつれ、数年前からは交通事故や離婚、相続などの案件も扱えるように。今ではそれぞれを専門化し、チームで対応するスタイルに変わっています。

——特に力を入れているのは、どのような分野なのでしょう。

交通事故です。そのチームリーダーは、当事務所の役員でもある仁井弁護士に任せています。彼はうちのエースで、まだ

若いですがとても優秀な弁護士です。他にも優れた弁護士が揃っていますし、事務職員も優秀なのです。今の時代に大切なのは、様々な相談者様に対応できる、多様なキャラクターと特性を持った弁護士・スタッフを揃えることだと私は考えています。若い女性が弁護士事務所の扉を叩いて、私が出て行ったのでは入りづらいかもしれませんし(笑)、それはお話を伺う上でも同様です。

——老若男女の相談者さん、多種多様な相談内容に対し、適した人材で対応することが大切だと。

ええ。毎年新しい弁護士が1,500人生まれている現状、選択権は相談者様にあり、淘汰されないためにはニーズに応えられる弁護士事務所でなくてはなりません。それにどんな商売でも、人の役に立ってなんぼだと思うのです。当事務所は大晦日と元日を除き、年中無休で営業しており、弁護士も複数いますので、予約なしでも対応できます。困った時、すぐにお役に立てる弁護士事務所であるよう、さらに弁護士を増やし、10名ほどの体制にするのが今後の目標ですね。

どが抱える問題を、各専門家が解決に導いていく。寄せられる寄付金を費用に当て、依頼者はローコストで依頼できるという。

中でも、同財団が重視するのが「終活」。「長年苦勞してこられた高齢者が、人生の終盤に行き場がないというのは、あまりにつらい」と、若松弁護士も終活支援に力を注ぐ構えだ。社会に埋もれる問題を行政だけに任せるのではなく、土業の立場からアプローチする。見据えるのは、土業・市民・企業が密接につながり合い、助け合う地域社会の実現。その活動は、地域に親しまれる法律事務所を目指す「ラグーン」の活動も、後押しすることだろう。

### 各専門家と取り組む「プロボノ活動」

30年以上にわたって地域に根差し、下関有数の弁護士事務所を築いた若松弁護士。今後は仁井弁護士をはじめとした後進へと事務所を任せ、次なる挑戦「プロボノ活動」へと打って出るという。

プロボノとは、各分野の専門家が各々の能力を活かして社会貢献するボランティア活動のこと。若松弁護士は、社会保険労務士、税理士、司法書士など、10土業の専門家と共に、今年「下関プロボノ財団」を設立した。関門都市圏の子ども、高齢者、女性な

# ニーズに応える 護士集団

7名の優秀な弁護士を揃える、山口・下関の弁護士事務所「ラグーン」。交通事故や離婚、相続など、それぞれの案件を担当する専門チームをつくり、きめ細かな対応を実現している。本日は、そんな同事務所をタレントの板東英二氏が訪問。所長を務める若松弁護士と、期待のエース・仁井弁護士のお二人にお話を伺い、業務に懸ける想いに迫った。



## 弁護士 仁井 真司

愛知県出身。2009年に「広島大学」法務研究科を修了し、2011年に弁護士登録。2012年1月、「弁護士法人 ラグーン」に入ると、現在は若くして交通事故チームをまとめる他、同事務所の役員を務めている。

### 待つのではなく、出向くことで 身近な法律事務所を目指す

——仁井弁護士は「ラグーン」さんのエースとして、交通事故チームのリーダーを務めていると伺っています。具体的に、どんな案件を扱ってられるのですか。

最近ですと、小学生のお子さんが自動車にはねられ、重大な被害に遭われたという交通事故案件がありました。加害者に対し、損害賠償請求をお考えのご両親

からご相談を受けたのです。本件は、子どもが「飛び出しをしたのか」が大きな争点になる、事実認定が難しい案件でした。そのご両親は当然ながら法律上の知識がなく、困り切っていた中、こちらにご相談に来て下さったそうです。

——大変な状況の中、相談に対応していただけるだけでも、不安が和らぐことでしょうか。しかし、弁護士事務所に行くのは、なかなかハードルが高いとお考えの方も多いと思います。

確かにそうですね。先ほどのご両親は、当事務所のWebサイトをご覧になって、こちらに足を運んで下さいました。しかし、中には困っておられても、なかなか法律事務所に足を運べないという人も、少なくないでしょう。そんな皆様が抱く不安の一つひとつを取り払い、ハードルの低い事務所にすることが大切だと考えています。中でも、重要なのは経済面。当事務所では初回30分の相談料を無料にしており、またその中で、案件を進める上でどれだけの費用が掛かるのかも、しっかりと説明させていただきます。

——現実問題として、費用は何より大切な部分だと思いますし、それが明瞭になれば安心できますものね。

ええ。困ったことがあれば、とにかくご相談に来ていただければと思っています。お話を伺った上で、弁護士が必要かどうかの判断もできますし、契約に至らなくてもできるアドバイスはあると思いますから。とは言っても、最初の一步がなかなか踏み出せないという問題は、簡

単に解消できるものではありませんね。——交通事故や離婚、相続も、誰もに起こりうる問題です。しかし、こちらに限らず弁護士事務所は全般的に、なかなか気軽に足が向かない。不思議な話ですね。

そうですね。そこで、当事務所では最近、こちらから出張に出向くという試みも行っているのですよ。下関で有名なショッピングモール「ゆめシティ」などで、出張相談会を開いているのです。

——それは良いお考えですね！ なかなか事務所には足を運べない人も、ショッピングモールでなら堅苦しく感じず、気軽に相談ができるでしょう。

これは、当事務所の広報担当の職員が出したアイデアでした。ショッピングモールなら、人が多く集まりますし、買い物のついでにでも気軽に相談していただける。そのように、こちらから出向き、弁護士を身近な存在だと思ってもらえば、ご相談のハードルは大きく下がると考えているのです。これからも、弁護士として一つひとつのご相談にしっかりと対応していくことはもちろん、身近な事務所をつくっていきけるよう、頑張りたいと思います。



(取材：2016年5月)

### After the Interview

「様々な相談に対応できるよう、幅広い人材を揃えること。そして、自ら出向いてでも、身近な存在として認知してもらえるよう努めること。若松弁護士と仁井弁護士、お二人が話されたのは、どちらも相談者さんの視点に立った取り組みについてでした。そのように、相談者第一の想いを共有しているところに、「ラグーン」さんが多くの実績を築く所以を見たように思います。今後も変わらぬ姿勢で、地域を支えていって下さい！」

### ゲスト 板東 英二

